

名古屋大学 環境医学研究所 市民公開講座 2014 「認知症と戦う」

日時 平成 26 年 10 月 18 日(土) 13:00~16:30

場所 野依記念学術交流館(名古屋市千種区不老町)

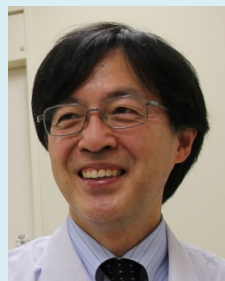
プログラム

13:00-13:05 開会の辞 名古屋大学 環境医学研究所 所長 澤田 誠

13:05-13:45 「認知症の早期発見、治療・予防」 山田 正仁

(金沢大学大学院医学研究科 脳医科学(神経内科) 教授)

社会の高齢化に伴い、認知症や認知症の前段階である軽度認知障害の人の数は急増しています。私達は石川県七尾市中島町で、住民の皆さんと共に認知症の早期発見・予防を目標とする研究(“なかじまプロジェクト”)に取り組んでいます。最近の調査では、65歳以上の高齢者の約3割は認知症あるいは軽度認知障害になっているという結果でした。講演会では、認知症の早期発見・診断、治療・予防についてお話しします。特に、最近注目されているライフスタイル(食事や運動)と認知症発症のリスクとの関係に焦点を当て、食品や食品に含まれる天然化合物の効果についての研究成果を紹介したいと思います。



13:45-14:25 「歯周病などの口腔疾患のケア・治療による

認知症の予防」 道川 誠

(名古屋市立大学大学院医学研究科 病態生化学 教授)

口腔疾患・口腔環境悪化とアルツハイマー病との関連が、複数の疫学研究によって指摘されています。しかしながら、両者の関連を明らかにした基礎研究は不十分であり、両者を結ぶ因果関係の分子基盤は明らかではありません。本講演では、口腔疾患・環境悪化の代表的病態として、歯周病(炎症)を中心に、歯の欠損(咀嚼低下)ならびにリキッドダイエット(咀嚼低下)を取り上げ、それらが及ぼすアルツハイマー病分子病態、脳神経細胞の形態と機能、および記憶・学習機能への影響およびその経路を、動物モデルを用いて明らかにした研究結果をご紹介します。アルツハイマー病の発症予防や症状緩和に、口腔疾患治療・口腔環境改善で貢献できる可能性が明らかになれば、医学的・社会的意義は大きいと考えられます。



14:25-14:40 休憩

14:40-15:20 「認知症のケア:どこまで自宅で看られるのか?」 長谷川嘉哉

(医療法人ブレイングループ 理事長)

認知症は、現状を把握して経過を予測することで適切な対応をすることが可能です。そのためには、医学的な診断治療だけでなく、介護的な対応と社会保障サービスの有効利用が必要です。医療法人ブレイングループでは月に1000名近い認知症患者さんを診察しています。認知症の症状に合わせた、介護サービス・社会保障サービスの適切な利用方法を紹介します。そして、『どこまで自宅での生活が可能なのか?』、専門医としての判断基準を紹介します。



15:20-16:00 「治療薬開発;環境医学研究所における取り組み」 錫村 明生

(名古屋大学環境医学研究所 神経免疫 教授)

認知症の詳細な発症機序は不明ですが、様々な角度から治療法が検討されています。私たちは、神経細胞の障害が神経細胞自体の問題ではなく、本来神経細胞を支持している周りのグリア細胞の異常によって起こっている可能性を考えています。そこで、グリア細胞の活性化を抑えたり、より神経細胞を保護するように変えることで、認知症の治療になるか検討したところ、いくつかの方法で認知症のモデル動物の認知能を改善しました。創薬にむけての取り組みについて紹介したいと思います。



16:00-16:30 パネルディスカッション

問合せ先 : 名古屋大学 研究所総務課 TEL:052-789-3886